高校生を対象とした性教育 ピア・カウンセリングの効果

―性的マイノリティに対する態度に焦点を当てて―

Key words：性的マイノリティ，性教育，ピア・カウンセリング

福山大学 人間文化学部 心理学科
社会心理学研究室
田原 歩美

研究目的

➢ 性的マイノリティとは・・・？

• 異性愛が正常とみなされる社会で，何らかの意味性で，性の在り方が非典型的な人達のこと

⇒ 偏見の対象になりやすい。

• 性的マイノリティの人権を守る立場から，性的マイノリティの社会的認知度や関心は高まっているが，日本では，性的マイノリティに対する研究は始まったばかりである。

• 性に対して，最も関心や興味を示す時期である高校生に，性についての正しい知識を与え，話し合いをさせることで，性の多様性の理解が深まるかどうかを検討。

ピア・カウンセリング

同世代の仲間集団で，話し合いを中心としたグループワークを行い，主体的に意思決定や行動選択を促進させる

①性的マイノリティに対する態度が変容するかどうか
②自己の性の在り方や生き方が変容するかどうか
③ピア・カウンセリングに対する評価の高低差がどのように影響するか

研究方法

【参加者】
H県内のM高等学校の2年生５６名（女子31名，男子25名）

≪事前調査≫

【調査時期】
2008年7月11日，7月16日
【質問紙】
（1）①自己肯定意識：平石（1990）の「対自己領域尺度と対他者領域尺度（5件法）
②性的マイノリティに対する態度：和田（1996）社会的容認度，心理的距離感，ポジティブイメージ度（4件法）
（2）自由記述による態度・イメージ
①性に対するイメージ
②性的マイノリティに対するイメージ
③性的マイノリティに対する態度

≪ピア・カウンセリングの実施≫

【テーマ】

『性とは何か―自分の性と向き合ってみよう―』

•性的マイノリティ(同性愛，両性愛，エイセクシュアル，性同一性障害)について，簡単に解説した資料を配布した。

•内容は，性的マイノリティの中でも，同性愛を重点に置いて，恋愛に性別は関係ないということを教えた。

【実施時期】

2008年9月17日10時～11時，9月24日10時～11時

【グループ構成】

高校生約10名を1グループとし，各クラス3グループに分かれてもらった。

事前の訓練を受けた大学生が，ピア・カウンセラー（ファシリテーター）として，1グループに1名ずつ参加。

【感想文】

（1）カウンセリング中に考えたこと。

①同性愛は異常か病気か。

②恋愛に性別は関係あるかどうか。

（2）ピア・カウンセリングの中で，性について何か気づいたこと，思ったことについて。また，ピア・カウンセリングで印象に残ったこと。

（3）ピア・カウンセリングの中で，改めて自分の性について考えたこと，気づいたことについて。

≪事後調査≫

【調査時期】

2008年10月3日

【質問紙構成】

事前調査の質問紙と同じものを使用（変更点なし）

≪分析方法≫

【量的分析（SPSS 13.0 J for Windows）】

（1）質問紙の自己肯定意識尺度

（2）性的マイノリティに対するイメージ

＊それぞれ，性別×調査時期の2要因2水準の分散分析を行った。

【質的分析（Text Mining Studio バージョン3.0）】

（1）質問紙の自由記述

①性に対するイメージ

②性的マイノリティに対するイメージ

③性的マイノリティに対する態度

（2）ピア・カウンセリング後の感想

①性について気づいたこと，思ったこと，印象に残ったこと

②自分の性について改めて考えたこと，気づいたこと

調査結果(量的分析)

1. 高校生の自己肯定意識について（対自己領域）

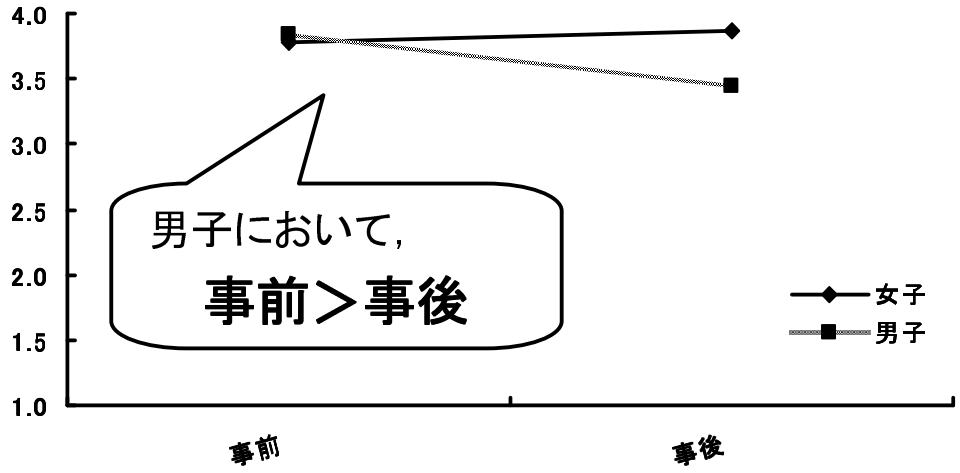

図1　調査ごとの男女別自己受容

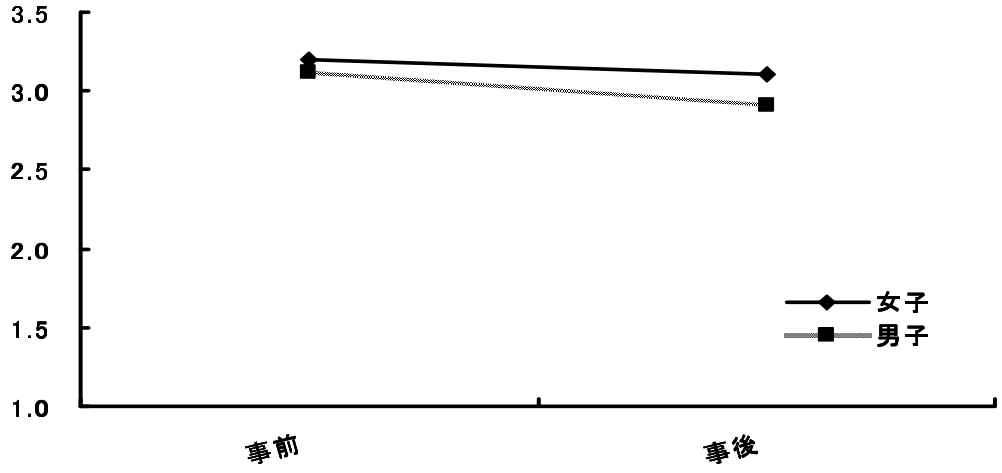

図2　調査ごとの男女別自己実現的態度

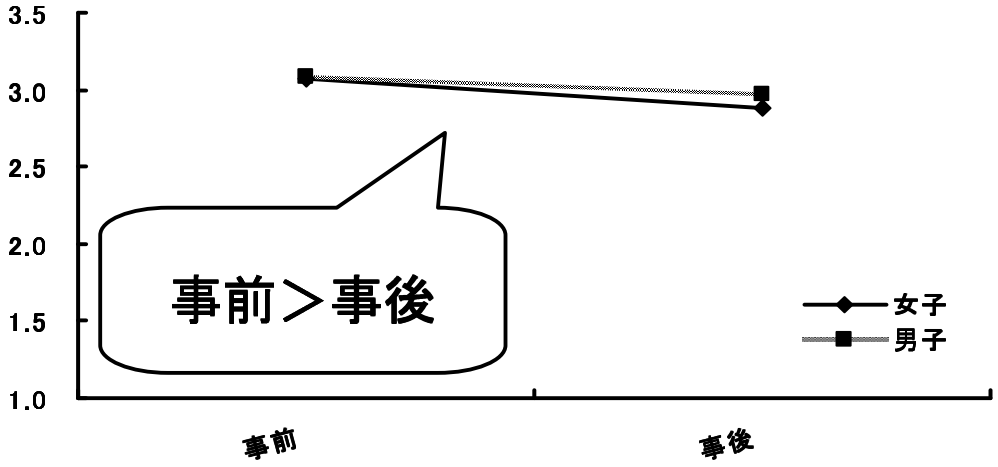

図3　調査ごとの男女別充実感

・自己受容

男子においては，ピア・カウンセリング後の方が低かった。

・自己実現的態度

変化は見られなかった

・充実感

ピア・カウンセリング前よりも，ピア・カウンセリング後のほうが充実感が低かった。

2. 高校生の自己肯定意識について（対他者領域）

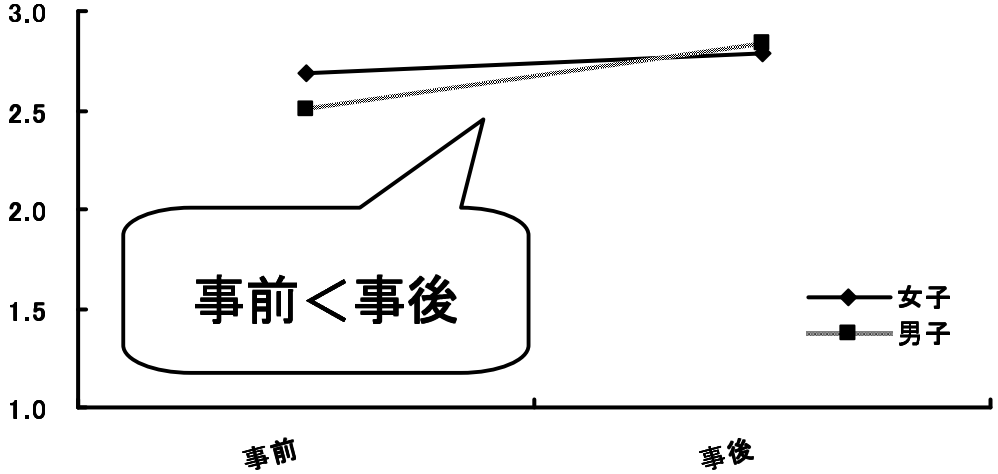

図4　調査ごとの男女別自己閉鎖性・人間不信

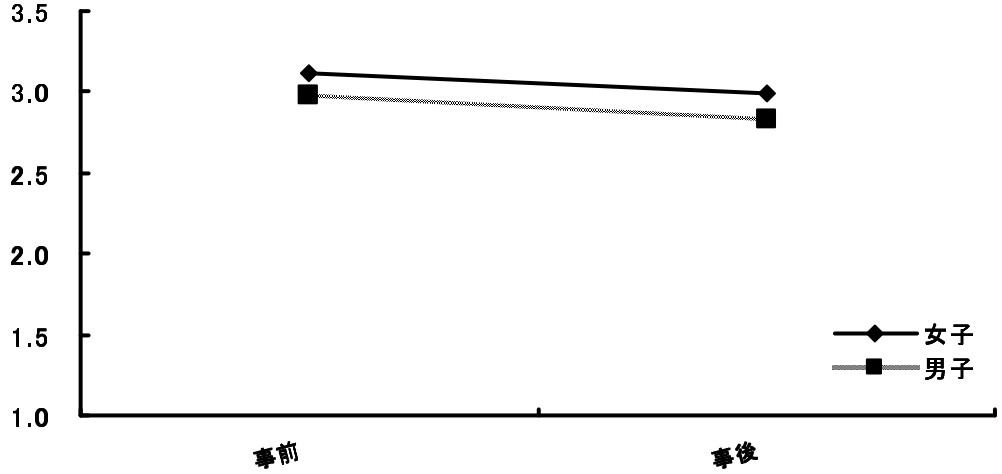

図5　調査ごとの男女別自己表明・対人的積極性

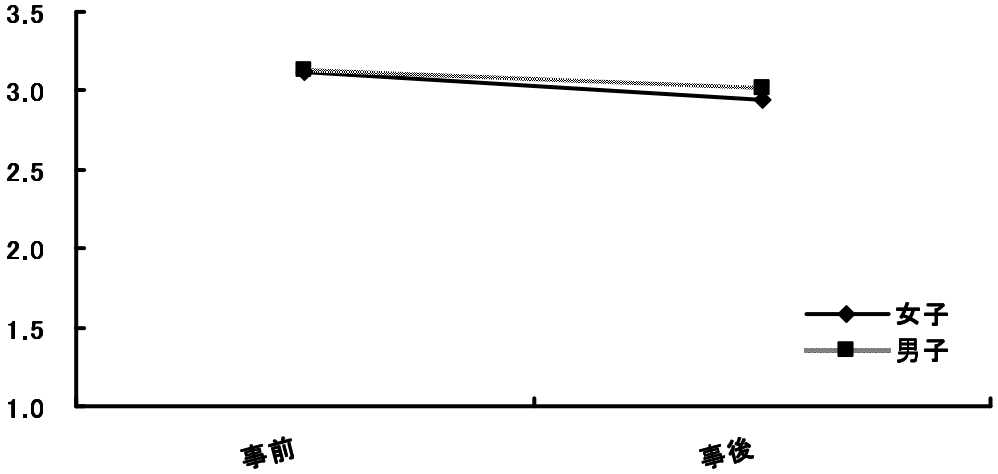

図6　調査ごとの男女別被評価意識・対人緊張

・自己閉鎖性・人間不信

ピア・カウンセリング前よりも，ピア・カウンセリング後の方が，自己閉鎖性が高かった。

・自己表明・対人的積極性

変化は見られなかった

・被評価意識・対人緊張

変化は見られなかった

3. 性的マイノリティに対する態度・イメージについて

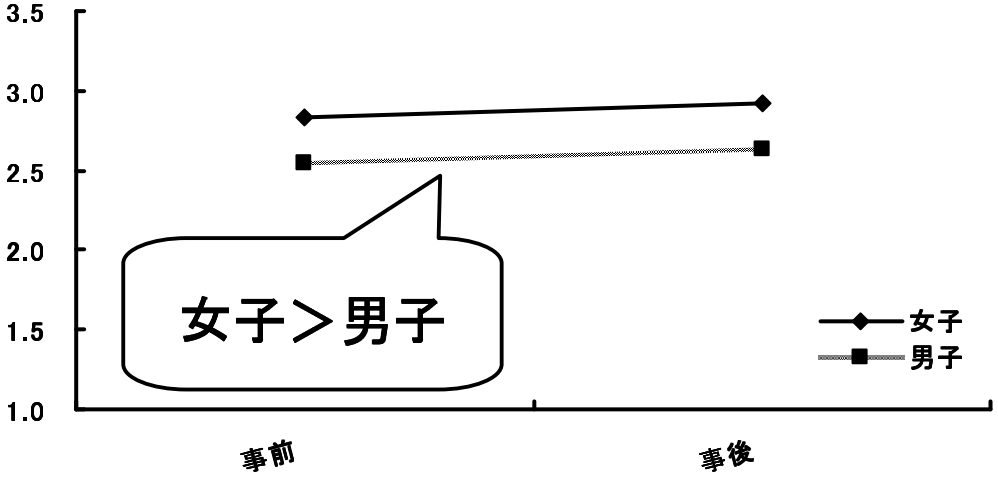

図7　調査ごとの男女別社会的容認度

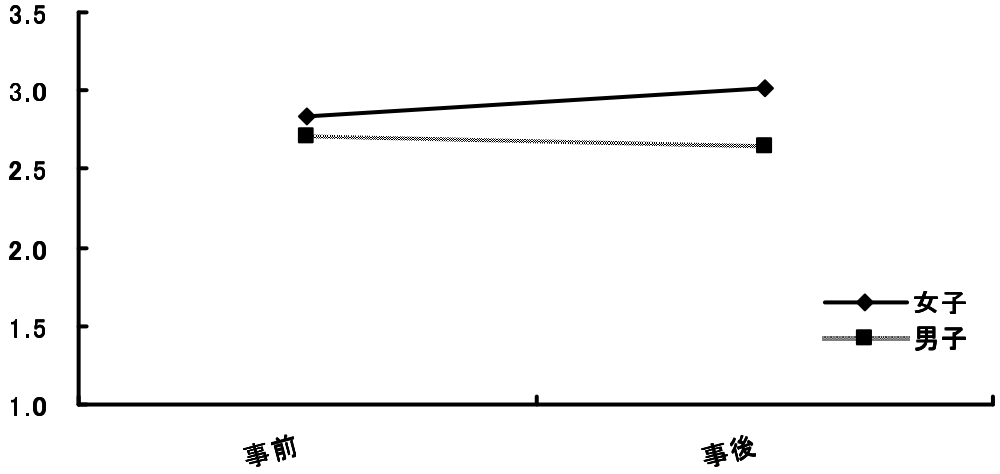

図8　調査ごとの男女別心理的距離感

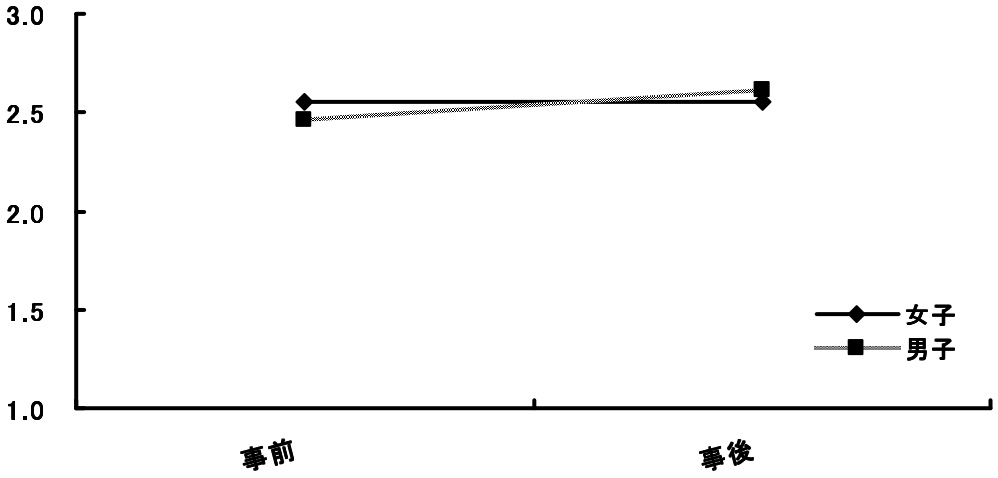

図9　調査ごとの男女別ポジティブイメージ度

・社会的容認度

男子よりも女子の方が，容認度が高かった。

・心理的距離感

変化は見られなかった

・ポジティブイメージ度

変化は見られなかった

調査結果(質的分析)

1. 性に対するイメージ

【属性】

事前調査，事後調査の2種類

【分析方法】

属性ごとの「特徴語分析」

＊品詞設定は「名詞・動詞・形容詞」

＊単語の頻度設定は「2回以上」

＊抽出指標の設定は「χ二乗値」

属性ごとの「ことばネットワーク」

＊共起関係を抽出

＊品詞設定は「イメージ」

＊回答数が少ないため，単語の頻度設定は「1回以上」

事前調査：特徴語分析

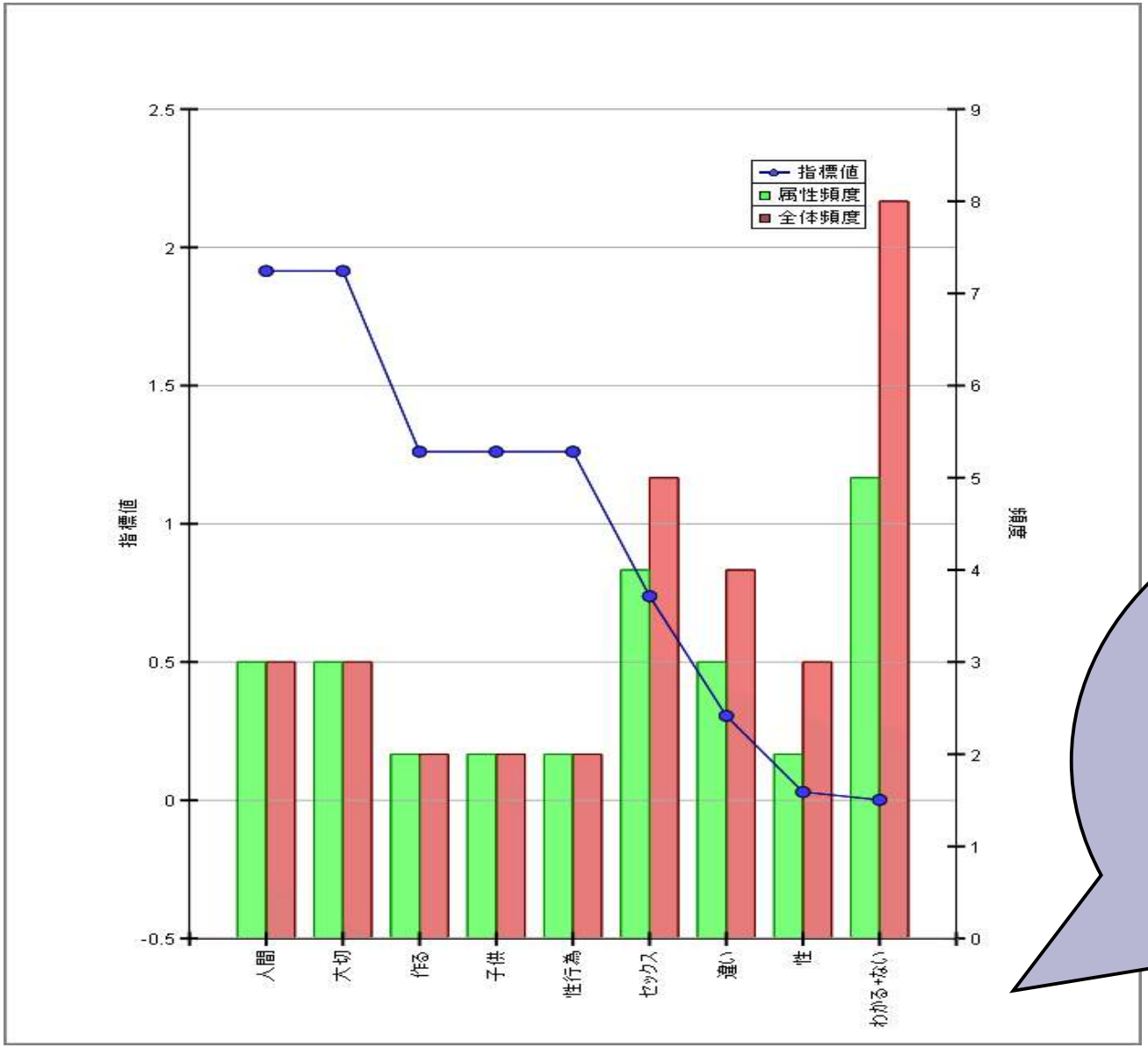

図10　事前調査における性に対するイメージの特徴的なことば

- 「人間」,「大切」,「作る」,「子ども」,「性行為」などが特徴的。
- 「性＝生殖」というイメージが強く，人間にとって大切なことであると考えている。

事後調査：特徴語分析

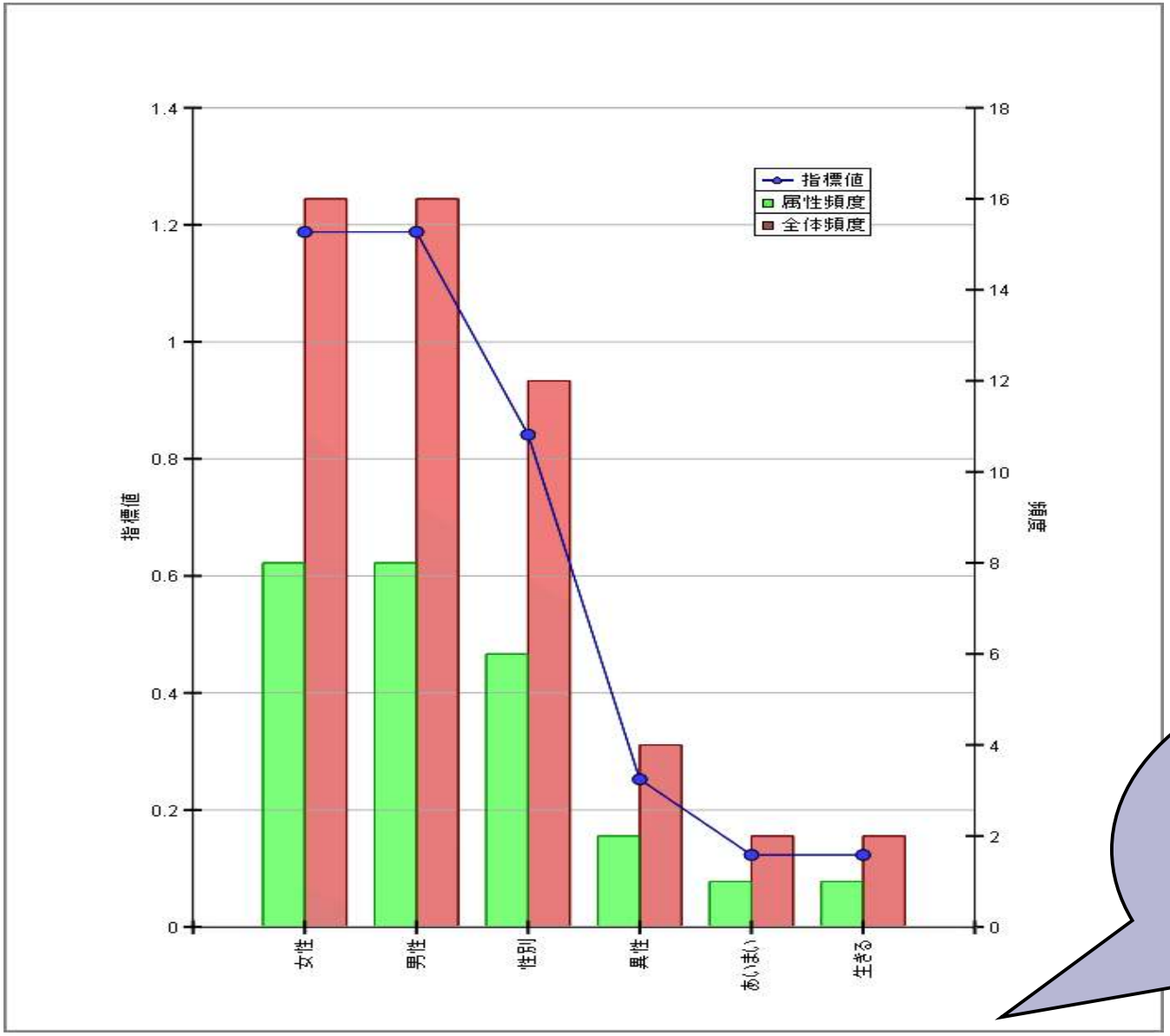

図11　事後調査における性に対するイメージの特徴的なことば

- 「女性」,「男性」,「性別」などが特徴的。
- 「性＝性別」というイメージを持つようになったと考えられる。

事前調査：ことばネットワーク分析

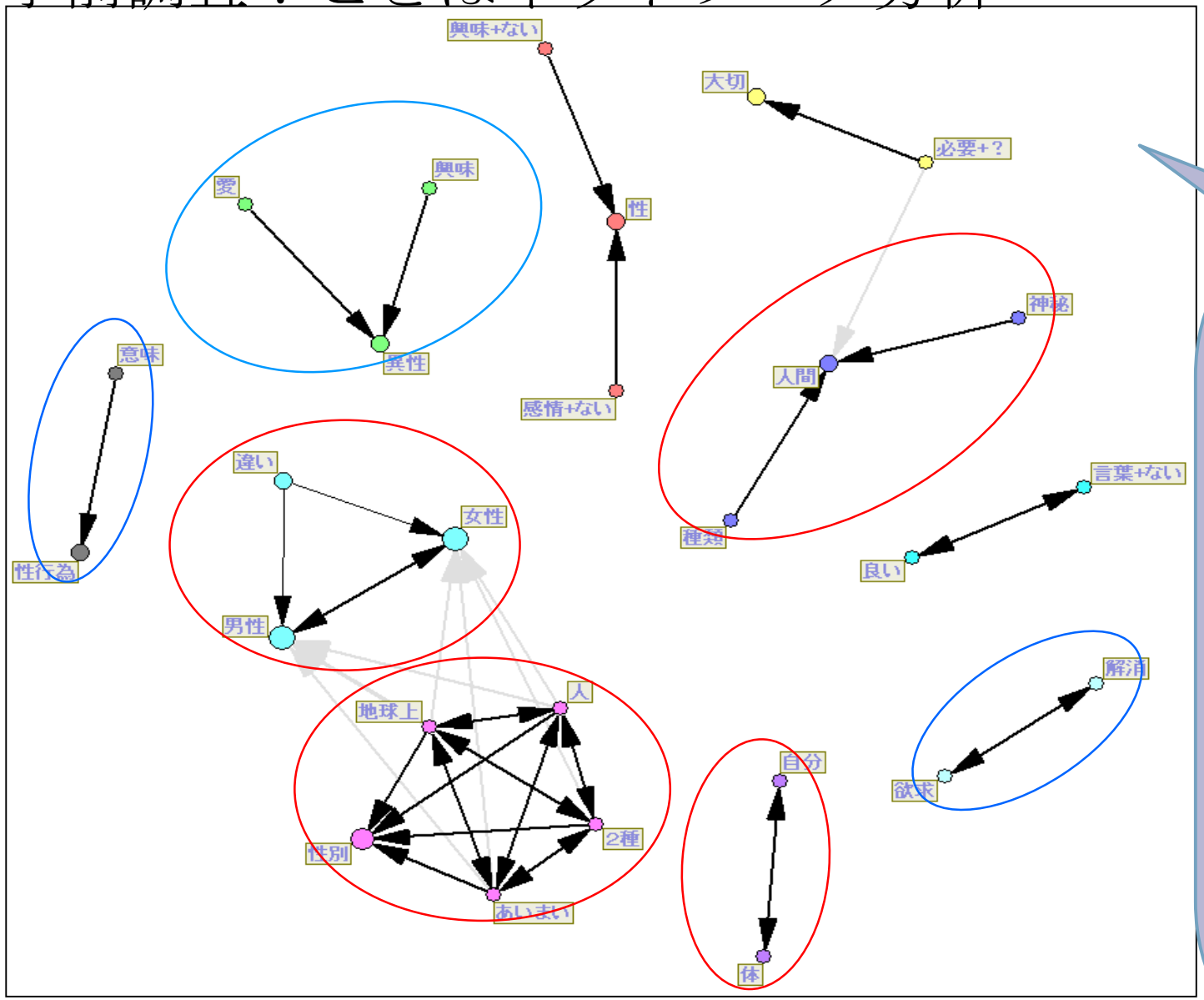

図12　事前調査における性に対するイメージのことばネットワーク

- **赤丸**

「性別」や「自分の体」，など，生物学的性（**セックス**）に関連する単語の連結が強く，人間の種類，性別の違いなどが話題に出ている。

- **青丸**

「性行為」や「異性への興味」など，性的な欲求を意味する，**セクシュアリティ**に関連する単語の連結が強く，異性への興味や愛，欲求解消などが話題に出ている。

事後調査：ことばネットワーク分析

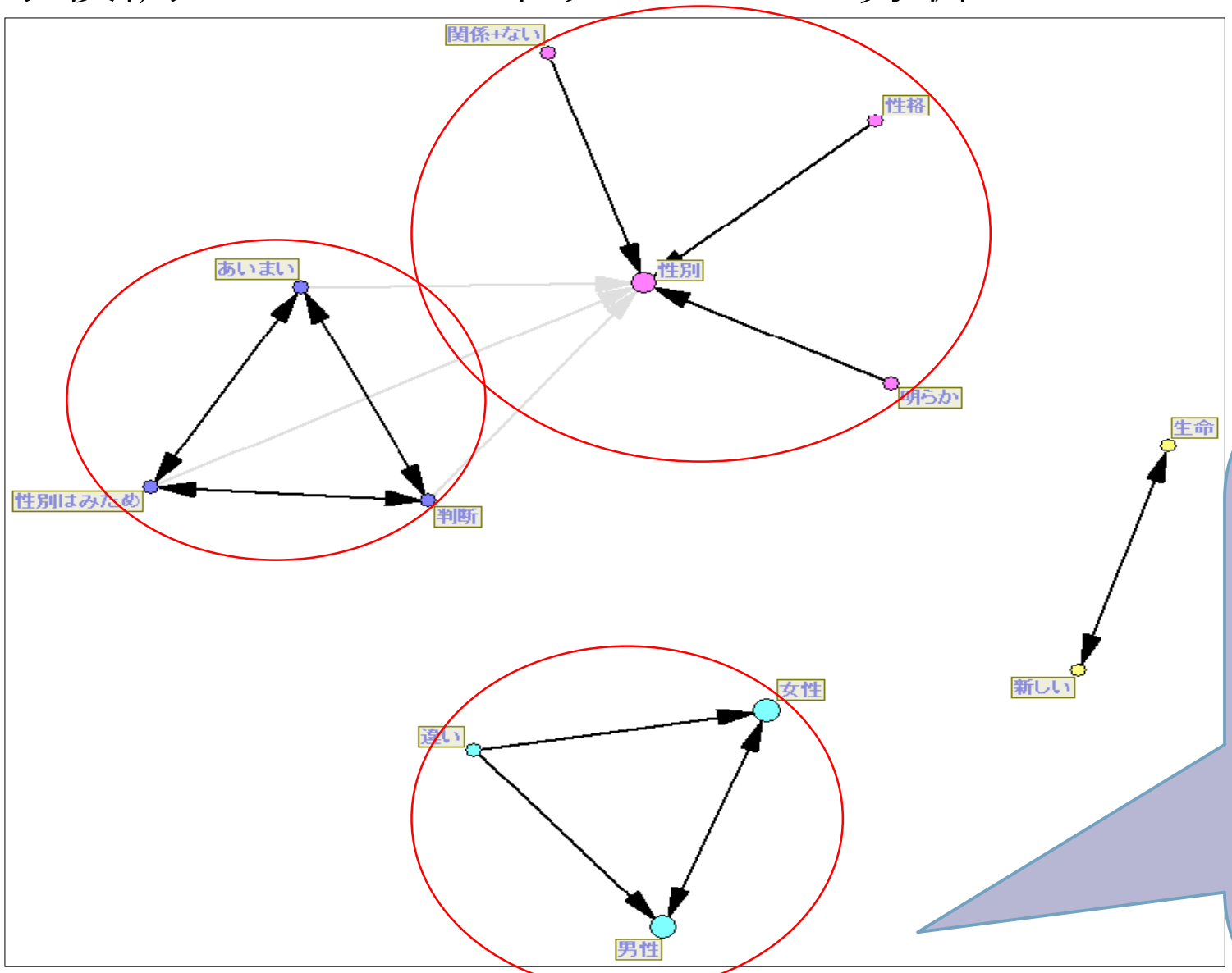

図13　事後調査における性に対するイメージのことばネットワーク

- **赤丸**

「性別」に関連する単語の連結が強く，「性」に対するイメージというものが，「男女の違い」，「性別は見た目で判断できないあいまいなもの」というセックスに関する話題にまとまったと考えられる。

2. 性的マイノリティに対するイメージ

【属性】

事前調査，事後調査の2種類

【分析方法】

属性ごとの「特徴語分析」

＊品詞設定は「名詞・動詞・形容詞」

＊単語の頻度設定は「2回以上」

＊抽出指標の設定は「χ二乗値」

属性ごとの「ことばネットワーク」

＊共起関係を抽出

＊品詞設定は「イメージ」

＊回答数が少ないため，単語の頻度設定は「1回以上」

事前調査：特徴語分析

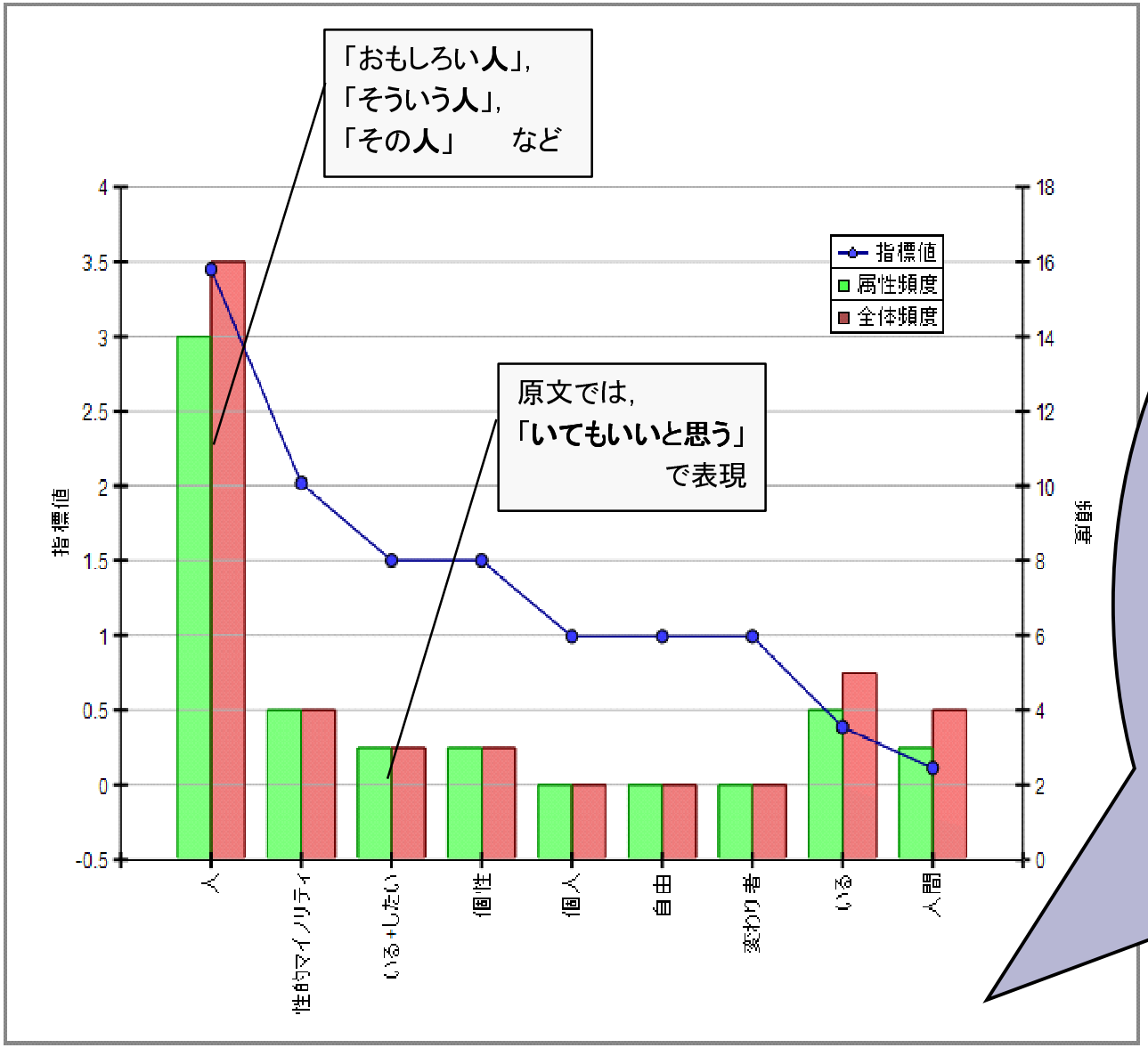

図14　事前調査における性的マイノリティに対するイメージの特徴的なことば

- 「人」,「性的マイノリティ」,「いてもいいと思う」,「個性」などが特徴的。
- 性的マイノリティに対して,「いてもいいと思う」「個性, 個人の自由」とポジティブにとらえている一方,「変わり者」「面白い人」「そういう人」など, 自分とは異なる存在, というイメージを持っていると考えられる。

事後調査：特徴語分析

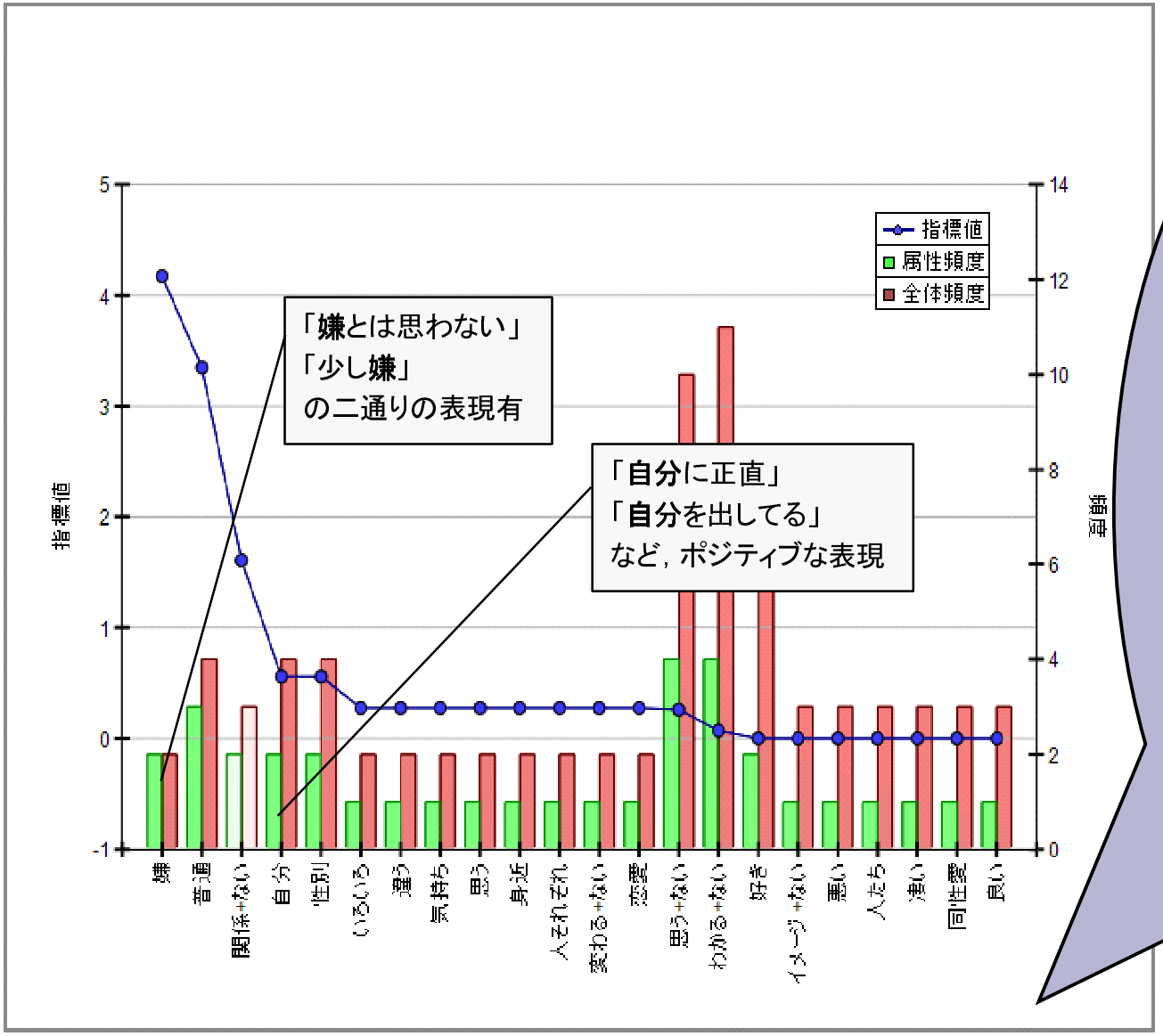

図15　事後調査における性的マイノリティに対するイメージの特徴的なことば

- 「嫌」,「普通」,「関係ない」,「自分」,「性別」などが特徴的。
- 「少し嫌」という言葉もみられるが，原文では「嫌だけど何とも思わない」となっており,「普通」,「性別は関係ない」ということばなどから，身近な問題として捉えるようになったと考えられる。また,「自分に正直」など，ポジティブなイメージを持つようになったと考えられる。

事前調査：ことばネットワーク分析

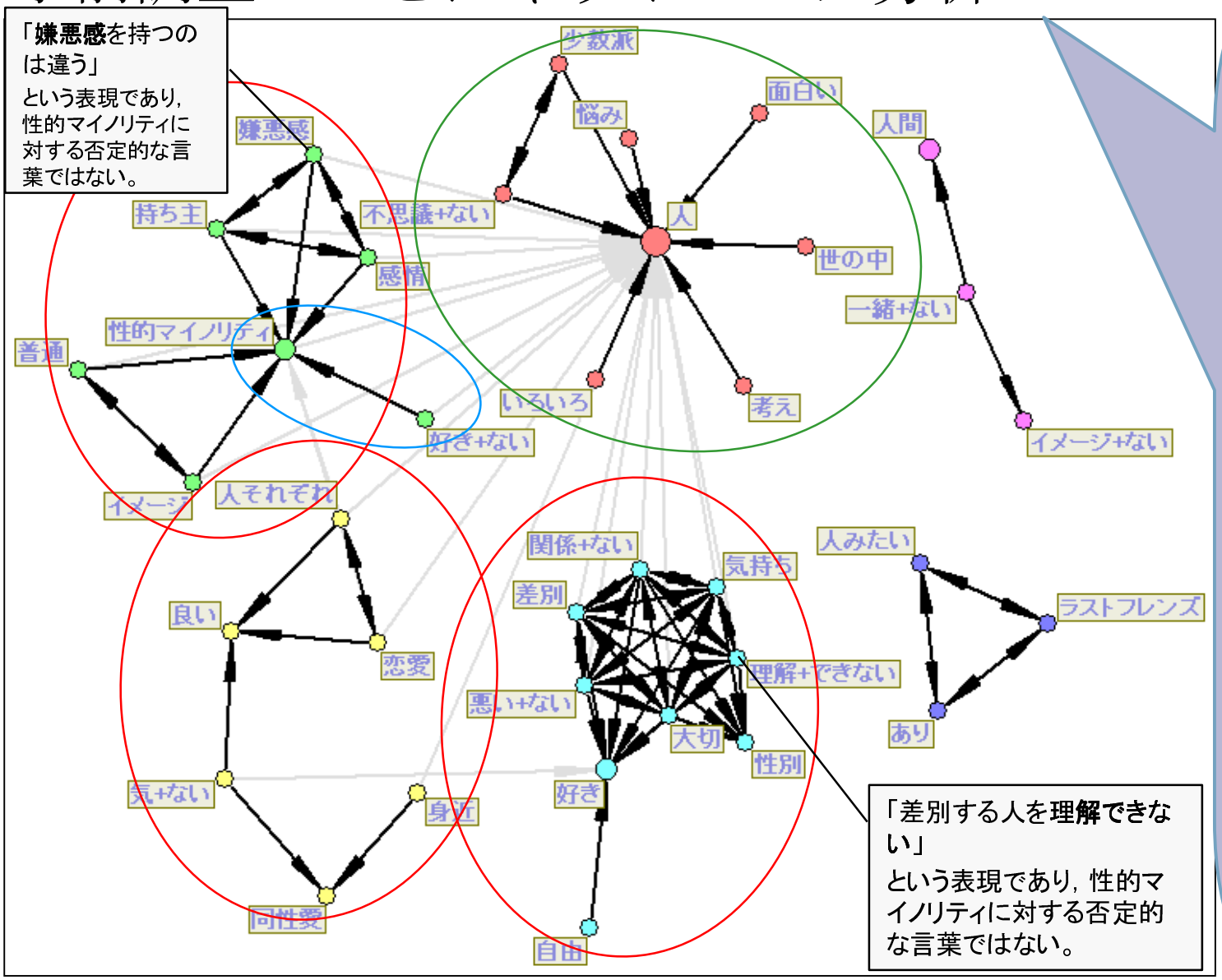

図16　事前調査における性的マイノリティに対するイメージのことばネットワーク

- **赤丸**

「良い」，「差別が理解できない」，など，**ポジティブ**なイメージに関連する単語の連結が強く，肯定的なイメージの話題が出ている。

- **青丸**

逆に，性的マイノリティという言葉に関連していても，「好きじゃない」という**ネガティブ**なイメージにも関連しており，否定的なイメージの話題も出ている。

- **緑丸**

ネガティブな意見ではないが，「人」という言葉に対する連結が強く，自分とは異なる存在と，あまり身近な問題として捉えていない。

事後調査：ことばネットワーク分析

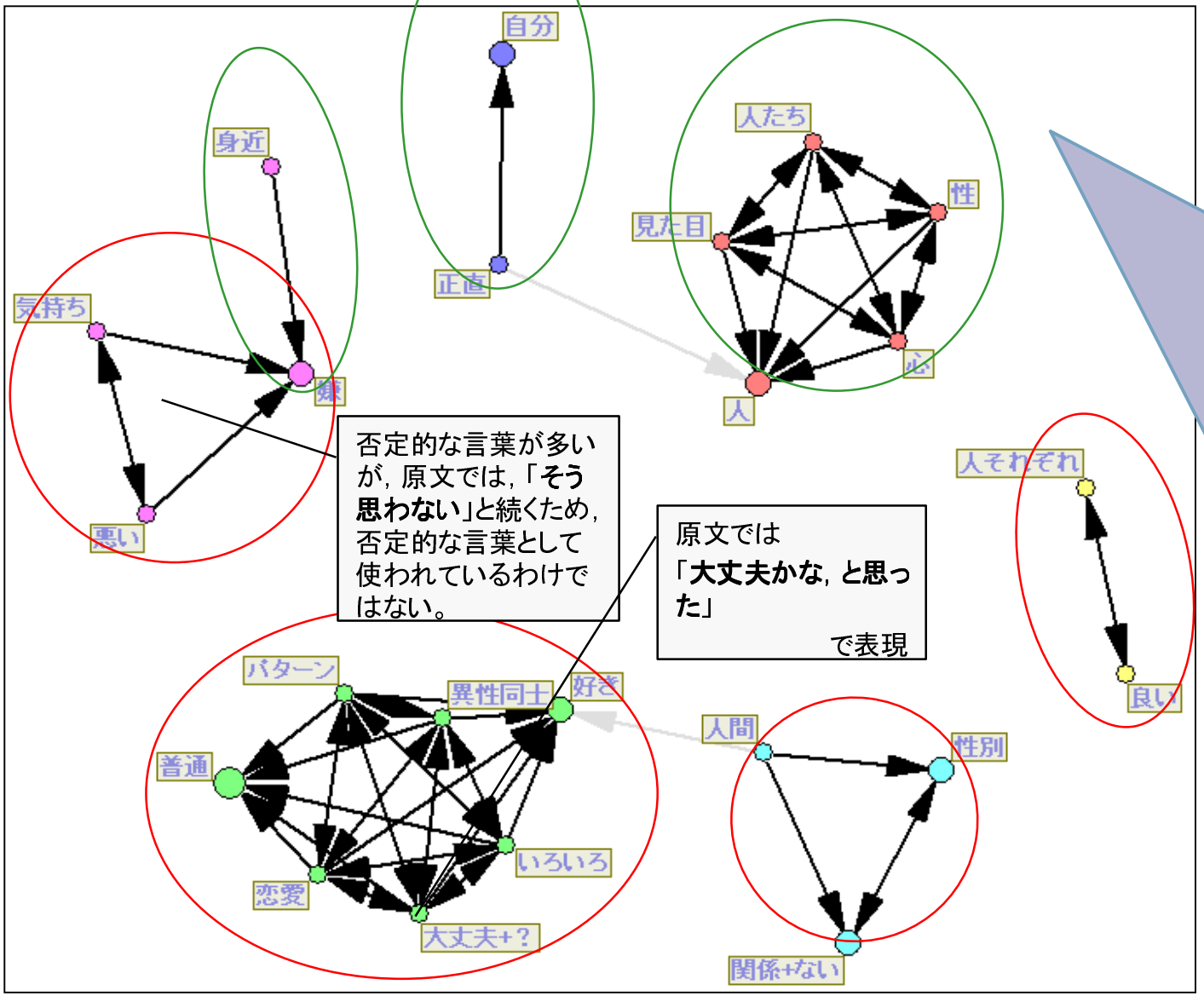

図17　事後調査における性的マイノリティに対するイメージのことばネット

- **赤丸**

「良い」，「大丈夫」など，**ポジティブ**なイメージに関連する言葉の連結が強く，「気持ち悪いとか思わない」，「人それぞれでいいと思う」など，<u>肯定的なイメージ</u>の話題が出ている。

- **緑丸**

「正直」，「身近」などの言葉に対して，「身近にいると嫌だけど何とも思わない」，「自分に正直な人」，また，「見た目の性と心の性が違う人」などの話題が出ており，**自分の気持ち**に関連する言葉の連結が強く，性的マイノリティを<u>身近な問題として捉える</u>ようになったと考えられる。

3. 性的マイノリティに対する態度

【属性】

事前調査，事後調査の2種類

【分析方法】

属性ごとの「特徴語分析」

＊品詞設定は「名詞・動詞・形容詞」

＊単語の頻度設定は「2回以上」

＊抽出指標の設定は「χ二乗値」

属性ごとの「ことばネットワーク」

＊共起関係を抽出

＊品詞設定は「話題一般」

＊回答数が少ないため，単語の頻度設定は「1回以上」

事前調査：特徴語分析

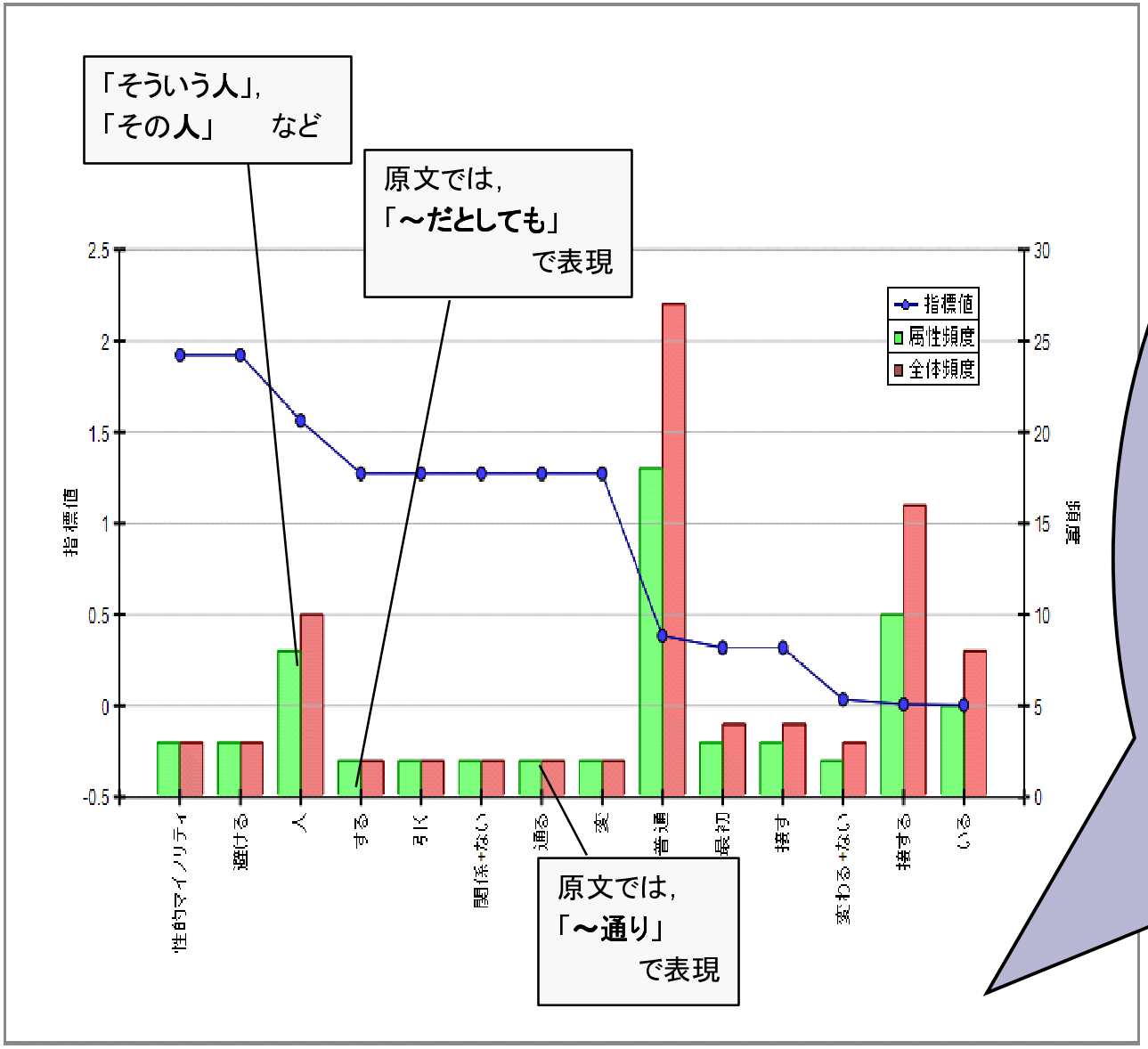

図18　事前調査における性的マイノリティに対する態度の特徴的なことば

- 「性的マイノリティ」,「避ける」,「人」,「～だとしても」,「引く」,「関係ない」,「～通り」,「変」などが特徴的。
- 「関係ない」,「いつも通り」など，性的マイノリティを受け入れる態度も多い反面，容認することはできても，「避ける」,「引く」など，態度には表れてしまう。
- 「～だとしても」,「そういう人がいても」など，可能性の問題として捉え，あまり身近な問題としては捉えていないと考えられる。

事後調査：特徴語分析

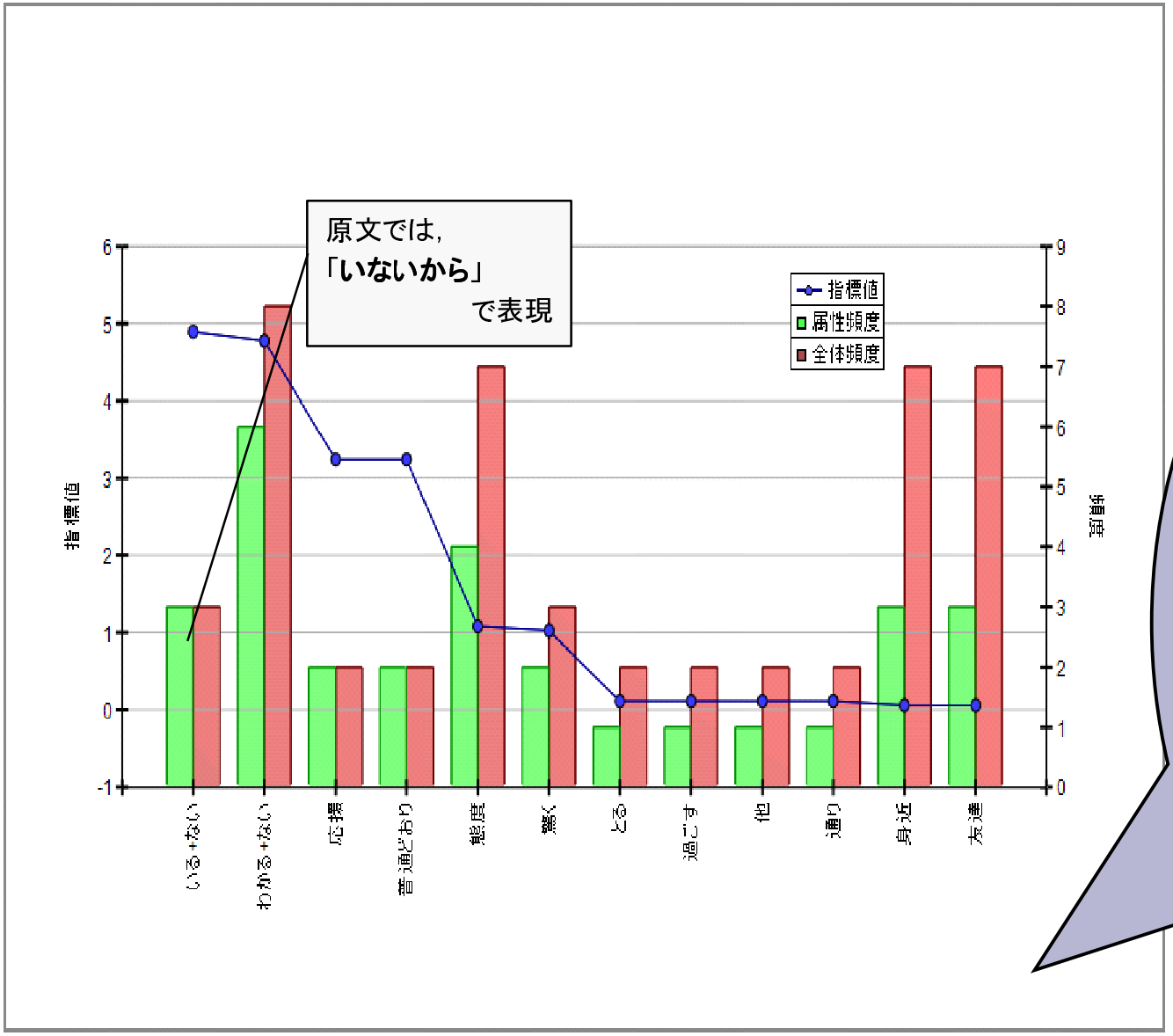

図19　事後調査における性的マイノリティに対する態度の特徴的なことば

- 「いないから」,「わからない」,「応援」,「普通通り」などが特徴的。
- 「わからない」という言葉が特徴的だが，これは，身近な問題だと認識しつつも，実際にはいないからわからない，と捉えることができる。
- また,「普通通りに接する」,「応援する」など，性的マイノリティの人に対して，ポジティブな態度をしめすと考えられる。

事前調査：ことばネットワーク分析

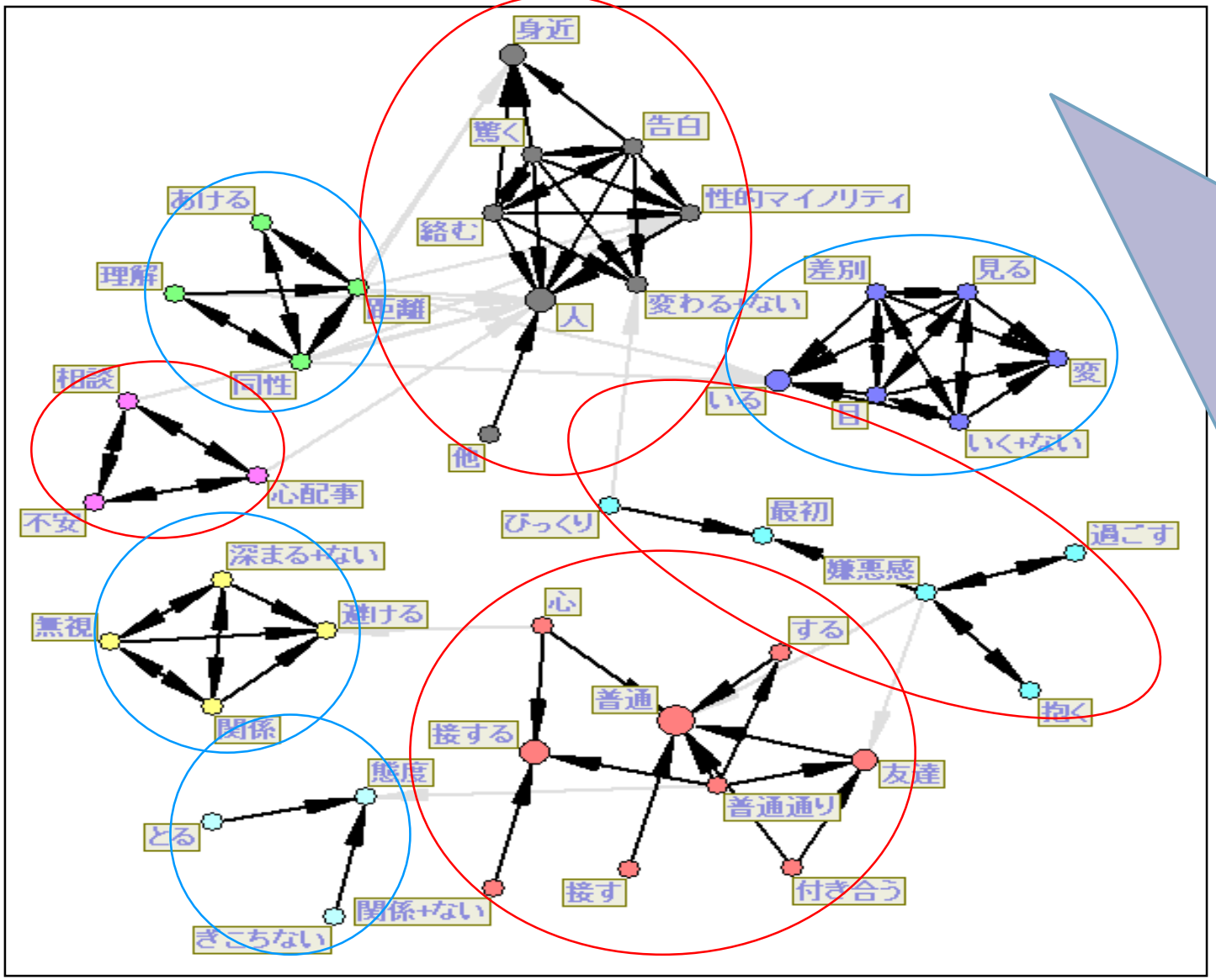

図20　事前調査における性的マイノリティに対する態度のことばネットワーク

- **赤丸**

「普通どおり」,「相談」など，**ポジティブ**な態度に関連する言葉の連結が強く，肯定的な態度で接する，という話題とともに，「嫌悪感」,「驚く，吃驚」など**ネガティブ**な態度に関連する言葉の連結も強いが,「最初は～」,「身近にいたら～」と<u>否定的な態度から肯定的な態度へ</u>変化していくのではないかと考えられる。また,「友達」という言葉にも強く関連しており，友人までなら容認できるとも考えられる。

- **青丸**

「避ける」,「距離」,「ぎこちない」など，**ネガティブ**な態度に関連する言葉の連結が強く,「差別まではいかないが～」,「理解していても～」など，性的マイノリティを<u>容認しつつも，心理的に距離を置いてしまう</u>と考えられる。

事後調査：ことばネットワーク分析

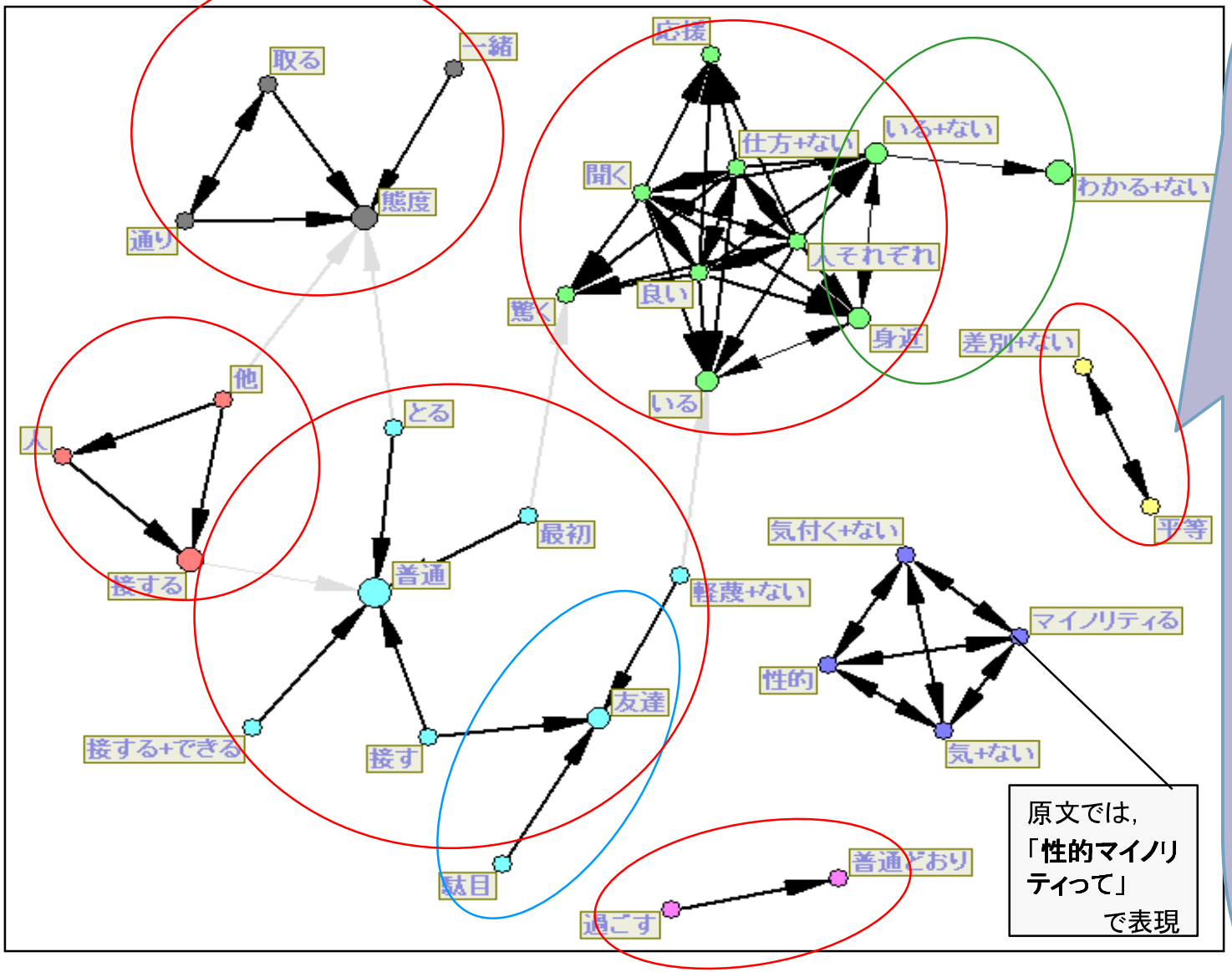

図21　事後調査における性的マイノリティに対する態度のことばネットワーク

- **赤丸**

「良い」，「一緒」，「普通」など，**ポジティブ**な態度に関連する言葉の連結が強く，「普通どおりに接する」，「他の人と同じように接する」など，肯定的な態度の話題が多く出ている。また，「応援する」など，性的マイノリティに対して積極的な態度で接していると考えられる。

- **青丸**

ポジティブな言葉と強く連結しているが，「友達としてでも駄目」という，**ネガティブ**な態度も同時に話題に出ているため，事前調査の時ほどではないが，事後調査においても，否定的な態度が見受けられた。

- **緑丸**

「いない」，「わからない」の関連が強く，性的マイノリティを現実的な問題，身近な問題として捉えていると，考えられる。

4. カウンセリング後の感想（性について気づいたこと）

【属性】

生徒の評価が高いカウンセラー（C）と低いCの2種類

＊カウンセリングのわかりやすさ，内容の難しさ，役に立つ内容だったかの3点を，生徒に評価させ，平均を出し，高低3人ずつに分けた。

【分析方法】

属性ごとの「特徴語分析」

＊品詞設定は「名詞・動詞・形容詞」

＊単語の頻度設定は「2回以上」

＊抽出指標の設定は「χ二乗値」

属性ごとの「ことばネットワーク」

＊共起関係を抽出

＊品詞設定は「話題一般」

＊回答数が少ないため，単語の頻度設定は「1回以上」

評価の高いＣ：特徴語分析

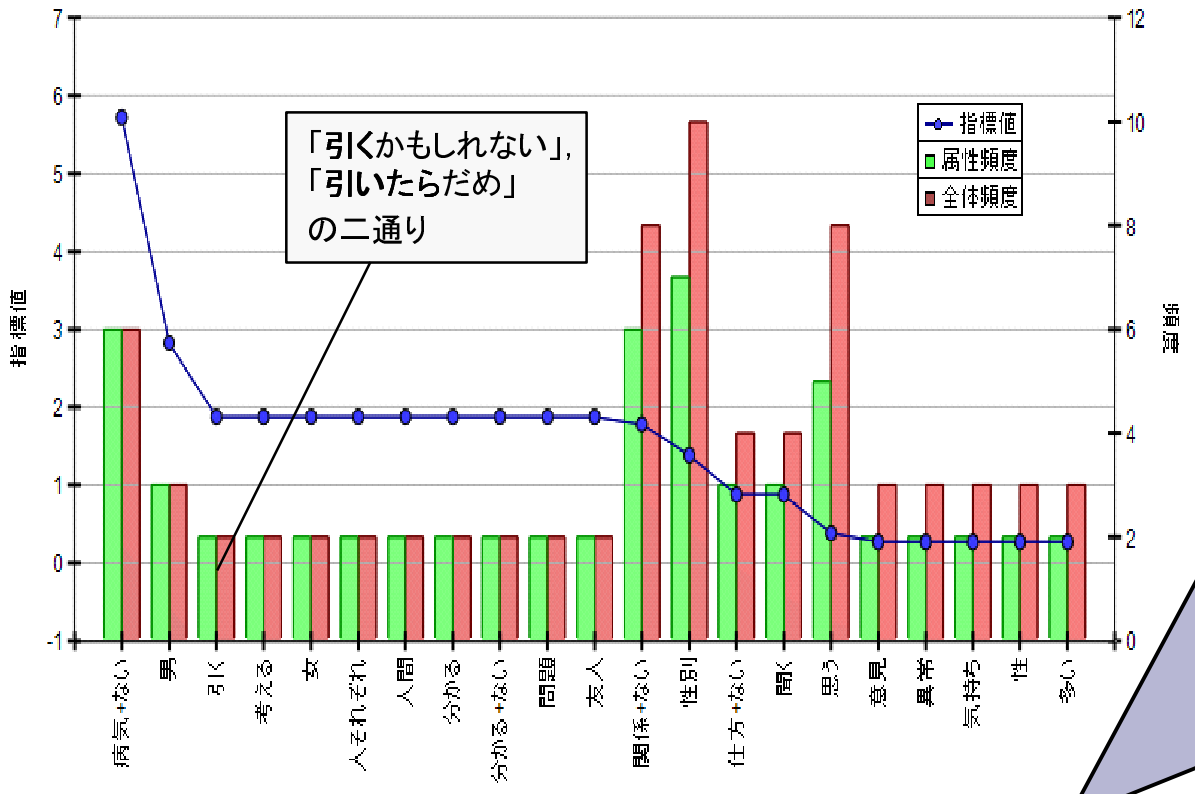

図22　評価の高かったＣにおける性について気づいたことの特徴的なことば

- 「病気でない」,「男」,「引く」,「考える」,「女」,「人それぞれ」,「分かる」などが特徴的。
- 「病気ではない」という認識が芽生え，男や女という性別に捉われず，「個人」として捉われるようになってきたと考えられる。
- 「分かった」,「分からなかった」など，ピア・カウンセリングに熱心に取り組み，今回の活動に興味を抱いていると考えられる。
- 「引くかもしれないが」,「引いたらだめ」など，積極的な態度へと変わってきていると考えられる。

評価の低いＣ：特徴語分析

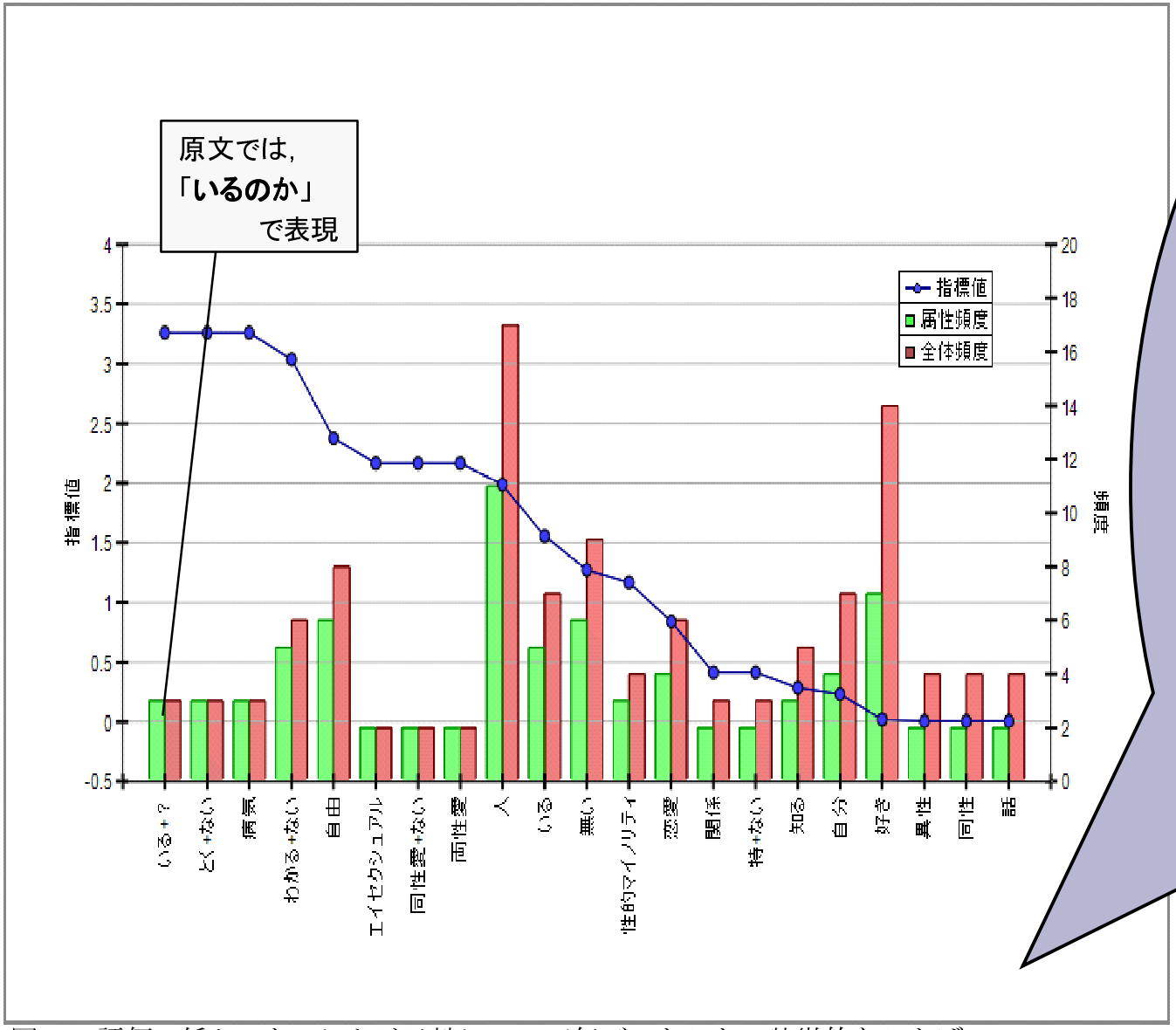

図23　評価の低かったＣにおける性について気づいたことの特徴的なことば

- 「いるのか」，「特にない」，「病気」，「分からない」などが特徴的。
- 「なぜ同性愛がいるのかわからない」，「いろんな人がいるのかなぁ」など，同性愛を容認しがたい意見が多かった。
- 「病気や異常でない」など，自分の中の変化ではなく，カウンセリングで印象に残った意見を書く生徒が多かった。
- 「特にない」という意見も多く，あまり熱心に取り組んでいなかった可能性がある。

評価の高いC：ことばネットワーク分析

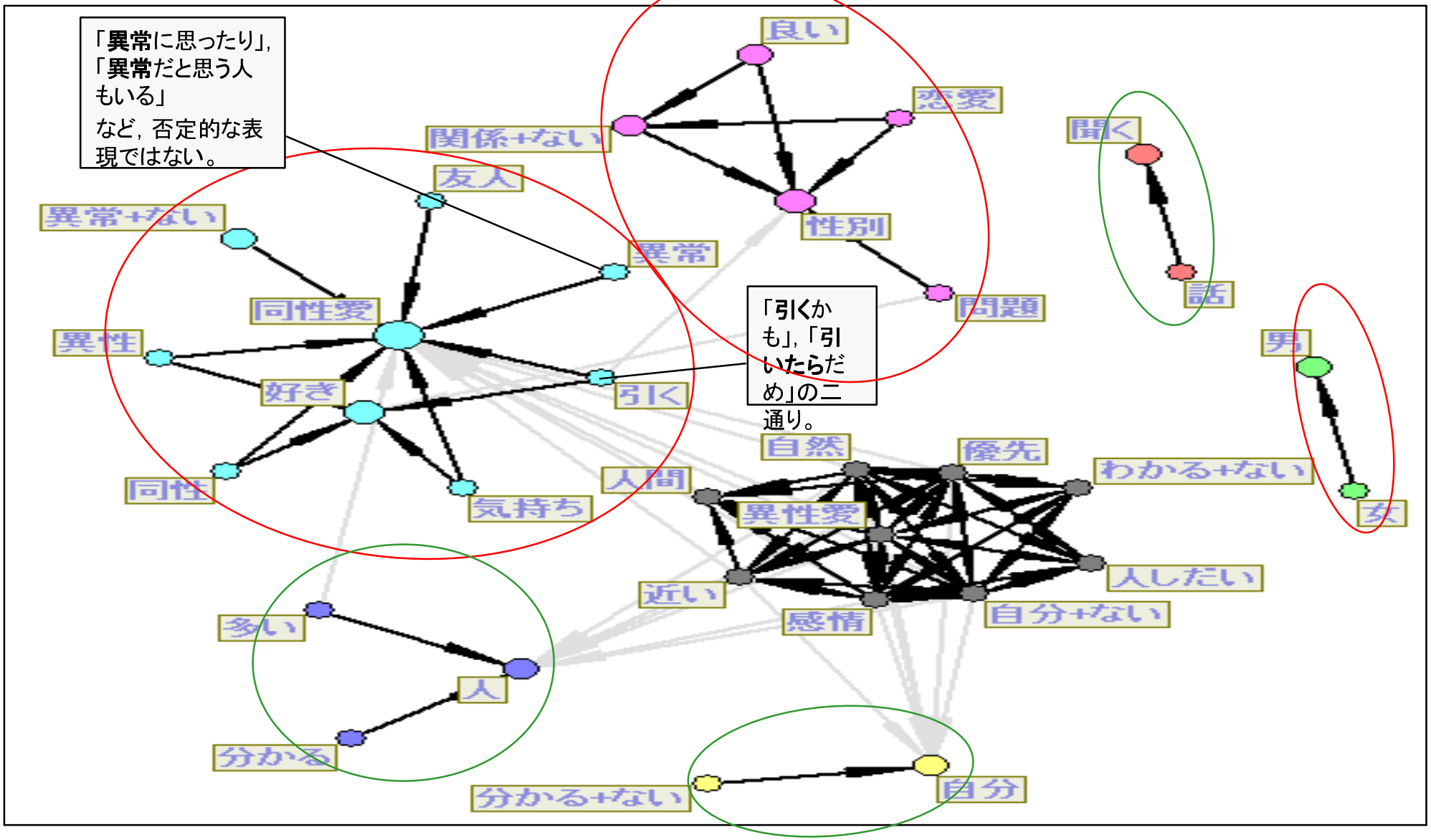

図24　評価の高かったCにおける性について気づいたことのことばネットワーク

評価の低いＣ：ことばネットワーク分析

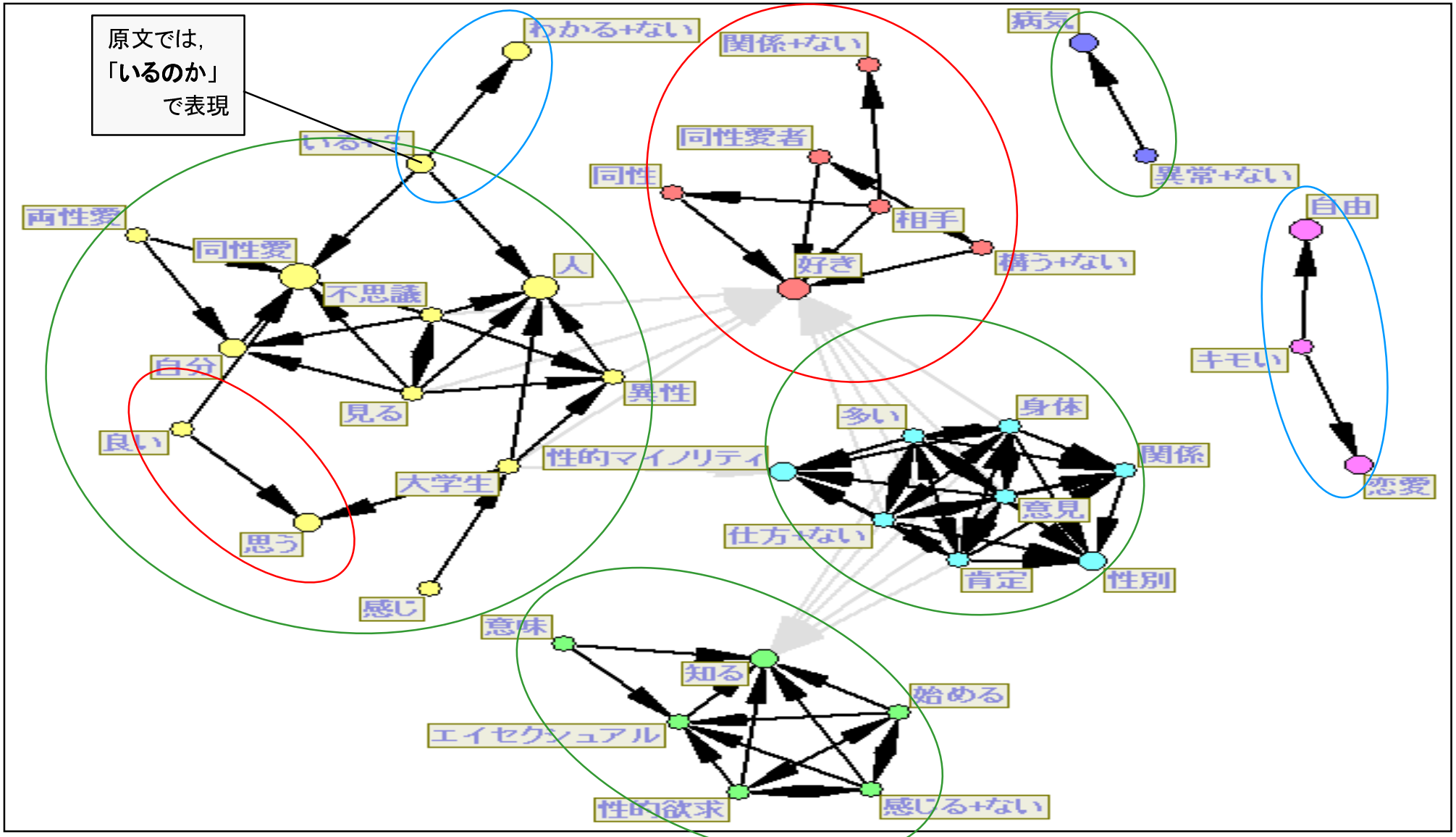

図25　評価の高かったＣにおける性について気づいたことのことばネットワーク

図24，図25の解説

- 赤丸

高低どちらにも出現しており，「異常でない」，「関係ない」，「気持ち」，「良い」，「男（女）」など**恋愛について**の感想に関連する言葉の連結が強く，「気持ちの問題」，「好きなら良い」，「性別は関係ない」など，性別に捉われず，「個人」として捉える事に重点をおき，肯定的な態度に変化してきたと考えられる。

- 緑丸

高低どちらにも出現しており，「話」，「分かる」，「自分」，「意味」など，**カウンセリングについて**の感想に関連する言葉の連結が強く，「話をすることで」，「～という人が多いことも分かった」，「自分にとって」，「意味を知った」など，話し合いによって，自分の考えに変化が表れたことを，意識し始めていると考えられる。ただし，**低い場合**は，“感想”ではなく，“印象に残った言葉”として書かれているものが多かった。

- 青丸

低い場合のみに出現しており，「キモイ」，「いるのか」といった**ネガティブ**な感想に関連する言葉の連結が強く，「何でいるんだろう」，「恋愛が自由なんてキモイ」など，ネガティブな態度や意見を持つ生徒もおり，ピア・カウンセリングを行ったからといって，態度が変わるとは言いきれない。

総合考察

1. 自己の性のあり方や生き方が高まるかどうかについて

- 自己肯定感は，全体的にピア・カウンセリング後に下がっていた。これは，ピア・カウンセリングの中で，性的多様性に触れることにより，自己への疑問が生じたと考えられる。

- 自分の考えに変化が現れたことを意識し始めていたり，相手を「性別」という枠にとらわれず，「個人」としてとらえるようになっていることから，ピア・カウンセリングによって，自己肯定意識が下がったとは，一概には言えない。

- カウンセラーの評価の高低差によっても違いがみられ，評価の高かったカウンセラーが担当のグループは，“自分の考え”をしっかり書いていたが，評価の低かったカウンセラーが担当のグループは，“授業の一環”という捉え方が見られた。

2. 性的マイノリティに対する理解が深まるかどうか

- 社会的容認度などの尺度上での態度変化は見られなかったが，自由記述や感想文において，ややポジティブな変化が見られた。

- ピア・カウンセリング前では，身近な問題として捉えている生徒は少なかったが，ピア・カウンセリング後では，ポジティブなイメージや態度が多くなり，身近な問題として捉えるようになったと考えられる。

- ただし，カウンセラーの評価の高低差によって違いがみられ，評価の高かったカウンセラーが担当のグループは，ポジティブな態度へ変化していたが，評価の低かったカウンセラーが担当のグループは，容認しつつも，ネガティブな態度をとっていたり，自分とは異なる存在，といった認識をしていると考えられる。

引用文献

平石賢二 (1990). 青年期における自己意識の発達に関する研究(Ⅰ)―自己肯定性次元と自己安定性次元の検討― 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科，**37**, 217-234.

和田実 (1996). 青少年の同性愛に対する態度:性および性役割同一性による差異 社会心理学研究, **12**，9-19.

謝辞

分析を行うにあたり，株式会社数理システムから，Text Mining Studio バージョン3.0の貸与を受けました。記して感謝致します。